

置候は、是又可爲曲事右之通相觸候間私領之内國產物有之面々は元直段引下け方之儀は領主地頭
 方精々遂吟味可被申仰付候若此上直段不引下け又は不正之儀も有之趣相聞可被申付候
 右之通可相觸候以上

正月十七日

三 間 勝 藏

三好郡中 與頭庄屋共方へ

參 考 目 録

牛飼受證文	板野郡	村幸八氏
國產積登下知書	海部郡	濱名理作氏
鹽濱開記錄	板野郡	馬居光次郎氏
正石灰手燒御免下知書	那賀郡	長町八州氏
茶賣事向に付申上書	那賀郡	坂州木頭村
諸產物御郡代演說書寫	那賀郡	坂州木頭村
茶板小成物類持越賣停止請書	那賀郡	坂州木頭村

造酒申渡其他寫	板野郡	吉田次郎氏
水井加茂兩村石	那賀郡	長町八州氏
灰甕諸品御調帳	麻植郡	大坪喜八郎氏
氷豆腐製法願下知	名東郡	富永久基氏
藍方諸事書付控	名東郡	富永久基氏
商法取開居置の株解放覺書	名東郡	福田小七氏
名東郡中農事漁	板野郡	村幸八氏
事摸樣申上覺書	板野郡	吉田次郎氏
里長原漁場出入内濟書	板野郡	岩佐豐太郎氏
山林新開願添付野圖	海部郡	谷類次氏
御林四方詰境立丁數調扣	名東郡	村上幸八氏
鹽改所印鑑	板野郡	井上喜久太氏
廣戸川網代御召申上覺書	海部郡	岩佐豐太郎氏
御林伐小成に付申上覺書	海部郡	井上喜久太氏
用水新設に付覺書	海部郡	岩佐豐太郎氏
木及朽材に付覺書	那賀郡	日野谷村
高瀬船作替用材根伐願書	那賀郡	坂州木頭村
米麥入津願	那賀郡	坂州木頭村

高地開墾願書
 名負山島伐取糺方願上覺書
 他國輸入米積込制度覺書
 鳥類保護其他御觸書
 諸職人名面取調方觸書
 唐物拔荷其他御法度御觸請書
 流木方御觸書寫
 伐木御改方申上書
 今津小松島綱代出入濟口證文
 用水申受覺書
 以西用水普請割銀取約帳
 以西用水御請書控
 入田新用水勸農請出來日証文
 新用水勸農普請願上覺書
 車用水申出覺書
 郡里山水論出入濟口
 請書及聞取書
 水論出入濟口書五通
 寬政時代水論

三三
 好好
 郡郡
 安宅喜市氏
 安宅喜市氏
 宮田竹三氏
 吉田次郎氏
 森田樹氏
 榎本儀市郎氏
 吉田次郎氏
 岩佐豐太郎氏
 今津浦村
 安藝九平氏
 湯淺氏太郎氏
 湯淺氏太郎氏
 板東兵八氏
 板東兵八氏
 板東兵八氏
 谷庄内氏
 武田浦三郎氏
 安宅喜市氏

運輸交通

運輸交通

難破船取扱定書

(板野郡森菴樹氏所藏)

一公儀之船は不及申諸船共に難風にあひ候時は助け船を出すへし磯近所は成程精と入不破損之様に肝をいへるへき事

一舟破損之時舟主頼候にをいては其浦之者荷物精と入可取上之然者其上る所之荷物之内浮荷物は貳拾分一沈む荷物は拾分一但河舟は浮荷物は三拾分一沈む荷物は貳拾分一其取上候者に可遣事一沖にをいて荷物はね候時は其舟つき候所之湊代官下代並庄屋出合い遂穿鑿船に相殘荷物之分書付之證文を可出事付船頭浦之者と申合荷物盜取はね候由申にをいては後日に聞え候共船頭は勿論申合候族不殘死罪其一浦は爲過料家毎に鳥目拾正宛可出候事

右條々可相守此旨惣而惡義仕にをいては其所之者は不及申自他所成とも訴人に出へし御褒美可被下其之科人之儀は隨罪之輕重可被仰付者也仍如件

寬永拾三年八月二日 奉行

邊路乞喰等無手形往來取締方御觸寫

(板野郡山田良太氏所藏 諸事御觸寫中抄出)

一從先規雖被仰出此節御預り人有之候條彌以於村々に邊路執行人乞食等に至迄不審之者有之は其生處能相改故郷へ村繼以送歸夫々請取渡し手形可取置若彼不審成者及異儀は其趣注進可仕事
一所々川口并御圍界御番所往來人從先年被仰出候通可相改但手形不致所持不審成者之義は指留置早速注進可仕事

右之趣今度賀嶋主水殿被仰渡之條但下村々悉相觸無油斷可相改者也

延寶五年巳九月十二日

山岡平右衛門
長谷川又左衛門
里村新助

通行手形並他國居住心得方御觸寫

(板野郡山田良太氏所藏 諸事御觸寫中抄出)

一郷中他國の罷越候者之義女は郡所手形出來候男船に而心次第に通路仕候へ共自今以後其村之庄屋年寄手形を以海陸共御番所へ相斷可罷通候若庄屋就御用他參候節は五人組手形を取可罷通候尤女之義有來通郡所手形可遣候庄屋五人與印判兼而其村之年寄之通路有之口々出置可申候壹ヶ月壹度宛村中他參人相改若此已後久敷不罷歸者於有之は其子細可申出万一勝手を以上方

其外他國へ罷越住居仕度者於有之は奉行所へ相伺指圖可請無其儀他國於住居仕者に吟味之上曲事に可被仰付候旨長谷川主計殿被仰付渡候間此旨相守面々組村中不限何者に一々可申聞者也

貞享四年卯四月十九日

岩田彦之丞
速水助七
井後直右衛門

通行切手へ庄屋五人組連判方御觸寫

(板野郡山田良太氏所藏 諸事御觸寫中抄出)

一所々川口御圍境御番所庄屋支配之者他國へ罷越男女切手庄屋一判庄屋留主之節年寄又は五人組壹判に而通來候へ共來四月朔日より已後庄屋五人與不殘連判手形可出候庄屋他參之節は年寄五人組不殘連判可相加候若年寄五人組之内他參仕候とも名は一紙書加へ他參之旨肩書可仕候五人組三人連判仕上は手形可出候只今迄之通庄屋五人與壹判又は貳判に而は通申間敷旨所々御番人方へ申付置候條此旨相守來四月朔日より已後庄屋五人組以連判可出候所に五人組貳人三人在之村之庄屋留主之節は三人之連判難成候條左様之村は其所之組頭庄屋加判可取都合三人方不足に而通申間敷旨堅申付置候事右之通面々組村中百姓末々に至迄堅相守候様可申付候以上

元祿八年亥三月十六日

寺澤形馬

虛無僧取締覺書寫

郡御奉行中

(勝浦郡
長尾要三氏所藏)

近年御國中虚無僧猥に多入込於市郷に食事等申法外仕形有之に付京都本寺明暗寺に申達爲取替候書狀書付をも先達而相渡候處より之存寄被申出段令承知候依て此後別紙之通被仰付候條書付之趣堅相守候様に所々御番所御國中屹可相觸置候且又郡所又々口々御番所に指置候本寺々之印鑑寺付候印は永々迄先は相居り候道理に而可有之候へ共名印之儀は住持切と相見候住持替節は印形可令相違候得とも後年に到證據には相成間敷候間時々住持之印鑑請取指指候義無支様に兼而明暗寺へ可移被置旨京都御留守居に被申達候次に寺々當御國坏虚無僧指指候義有之節は連判なく會判迄令所持候懸り之事に候へ共右様之節は京都御留主居方面々迄添狀請取指指候様に仕度旨申出有之候此義愈右之通相心得何分會判迄に而は通路不相調趣尙得と明暗寺に申談置尤時々右添狀相渡委曲外便りとも格別に面々之方へ申越候様には是又御留主居へ可被相達置候並阿波郡伊澤村に罷有

候虚無僧文明と申者只今迄懸りに指置候而は紛布候條根元出生相糺住所相極可被置候尤別紙ヶ條之通被仰付候段爲心得町御奉行へも各々可有通達候

七月廿七日

郡御奉行中

一先達而相渡置候京都明暗寺に指置候印鑑左之通御國境御番所に壹枚宛指置可申事

- 海部郡安喰口御番所 同郡大乘谷口同
- 板野郡大坂口同 美馬郡曾江口同
- 阿波郡日開谷口同 三好郡口同
- 同郡大影口同 同郡佐野口同
- 合 八ヶ所

右之外郡所にも壹枚宛可被指置候

一御番所へ虚無僧罷越候節改方之儀本寺之通判會判有之哉之趣御番人共相糺件之判物知有之者右印鑑引合相違無之候は、相通可申候尤御番人共々相改候處無異義に付徳島口郡所は罷通る道筋宿等無指支旨之庄屋當手形指指出せ郡所へも外御番所に相改紛無之に付相通候段送り手形虚無僧

に相渡右手形徳島郡所令持參候上に而修行之間宿舟渡等之三判手形申請候様に申合猶於郡所に相糺相違無之候は、御國中修行之間三判手形指出候勿論右修行相濟罷歸り候節郡所へ三判宿手形と歸り手形に引替可遣事

一通判會判所持不仕虛無僧之義者御關所一向相通間敷事

附明暗寺方指出候虛無僧之義者通判なく會判迄所持仕候趣に付外に京都御留王居方郡御奉行に之添狀相渡筈に候條其心得を以相改通路仕せ可申候勿論添狀をも會判迄令所持之者は堅指通中間敷候其内會判無之通判迄所持仕候虛無僧之義は印鑑引合相違無之候は、通路致せ不咎事

一萬一右に有之口々番人共送手形又は郡所の三判手形等も所持不仕令徘徊候虛無僧之儀は御番所無之拔道方入來候儀と相見へ候得は所役人共立合候而御制禁之趣申聞御境目迄相送り堅通し申間敷候其上にも及異儀候は、郡所へ速越相糺通判等所持之虛無僧に偽於無之者有來通御關所御番人共方送り手形請取可罷越旨申聞御境目迄送り歸り御制法之通仕せ可申事

一所々川口御番所罷通る者之義は御成行有之義に候得は若虛無僧令往來候共右同斷に可相心得事

右之通御書付を以賀島出雲殿方被仰渡候條堅可相守者也

江口彌兵衛

寶延四未年九月朔日寫

御番所切手連判御觸寫

(坂野郡吉田次郎氏所藏 諸御觸御狀扣帳中抄出)

所々川口御國境御番所之義村々庄屋支配之者他國へ罷越男出切手元祿八年三月迄は庄屋年寄五人與一判に而相通候へ共同年四月朔日以後は庄屋年寄五人與不殘連判を以出切手可指出候尤役人共之内他參仕候共名は壹紙に書加へ他參之旨肩書仕指出候様に組右役人共之内三人連判仕迄之切手に而候へ者相通可申旨御奉行其節所々御番人方へ申附其節郷中一統委曲相觸置候然所近年村々に寄り庄屋年寄五人與大勢有之候而も右之内他參居合不申者共へ出切手二名をも書加へ不申名印とも一向相除き出切手指出申に付役人共不足有無難相分有之候若役人共不殘相揃居申所他參に而名をも指除き而は御掟に相振候而津田川口御番人共申出候條此後他參仕候者役人共名不殘書加へ其段肩書仕指出候様に可仕候尤所々口々御番人共へも此段觸知せ此後役人之内他參仕者有之切手二名書加へ無之候は、切手請持不申指居候様に尙又申付置候條彌先年相觸有之通猶相守候様面々組村中急度可相觸此狀夫々相廻承知印加へ相濟村方可指戻候以上

戌十一月十一日

生田辨左衛門

中山藤藏
江口彌兵衛
板野郡與頭庄屋中

伊勢參宮者取締御觸寫

(板野郡吉田次郎氏所藏 諸御觸寫之扣帳中抄出)

此節伊勢參宮之義に付先達而相觸候通大勢相添罷越万一於他國異變等有之候而以上御懸り合に相成候並畢竟罷越候者共難澁に相及候段顯然之事に候其段不相辨指懸り大勢相催し罷越候趣に候既於大坂表 公儀方も別紙之通御觸有之候爲心得指遣候勿論信心に而參詣いたし候義全指留め可申様無之候且又女並幼少之者共御作法不相辨村役人並主人家主類親之者共へも不相知無切手に而心儘に罷越者も有之候は、決而參宮と不相立欠落人と可相成候條若右様之者有之候而は不輕科に相當り候條若右様之者可有之候哉重々念に入得と心得有來る通切手持參候様に申付素方右様之者申出候は、人數相添不申様配合と切手早々指遣候様に了簡可仕候万一切手無之罷越候者又は他國舟等乗候者は見付次第相改川口並御境目方追返候様に所々御番人共へ申渡候條右様不筋不心得之義無之様重々念に入面々組村中急々可相觸候尤承知仕旨印形加へ刻付を以急々相廻相濟村方此狀可指戻候以上

明和八年

卯五月十三日

林 小 八 郎
板野郡與頭庄屋中

四國遍路往來寺受狀

(名東郡 湯淺氏太郎氏所藏)

往來寺請狀之事

阿多名東郡井戸邑

一女貳人

兵吉姪
同人内 房

右之者此度四國遍路に罷越し候條宗旨之儀は代々眞言宗に而則拙寺且那に紛無御座候國々所々御關所無相違御通し可被下候並に舟川渡宿等難儀不仕様被仰付可被下候万一病死等仕候は、其處御作法を以御取捨可被下候其節國元へ御届けにおよび不申候依而往來寺請狀如件
文化九年申二月

阿多名東郡井戸邑

妙 照 寺 印

國々
所々御關處御番人衆中
在々庄屋中

本堂修覆勸化廻在手形

覺

僧俗三人勝浦郡中田村成願寺并下人鉄五郎彌作右は本堂寺とも爲修覆去る午年より去亥年迄六ヶ年之間御兩國市郷相對勸化出願手形指遣候處住僧昨年己來病氣に罷在海部壹郡并淡州分ども廻在相殘居候旨に而今明兩年廻在願出無據運に付手形指遣候様御當職御下知有之罷越候條當年中此手形を以相對之宿船渡不可有異議者也

文政十一子年十月十九日

太田章三郎

海部郡中

庄屋方へ

御番所通行手形

覺

(名東郡次氏所藏)

一家來壹人

小林義助

右者此度名東郡新濱村船頭

に而紀乃湯崎へ湯治に罷越度旨申出に付差遣申所相違無御座候條罷歸候節籠川口御番所無異儀罷通候様御申付可被下候以上

虛無僧本寺通印紙

(板野郡吉田次郎氏所藏)

通印

京都明暗寺

本則弟子

右壹人不叶用事之節宗門委に而阿讃兩國之間還留往通令許容者也

但鹽島御城下留吹修行堅禁止

文政六未年十月日 同守番僧

惠宗印

此印書後年番僧下向俟節迄可被御用事

驛鈴

(板野郡永井精浦氏所藏)

驛鈴と御切手箱

御切手箱

(那賀郡立江町所藏)

陸路往來切手

(海部郡岡田丞太郎氏所藏)

三人 阿州海部郡木頭上山夫兵衛同所

右之者共只今願下り申候於當地何之惡事も不仕候條陸路罷通候様被仰上可被下候以上

未三月廿五日 豊田伊左衛門

笠置孫右衛門

松村新左衛門殿 小寺榮次殿

(附記裏書左の通) 表書三人鹽島へ通路可被仰付候以上

尾關源左工門殿 岩田甚作

鼠關齋工門標

英書三人物像（羅經指舞時於對以上）
（納經書法（〇）應）

小寺 榮次郎
對付准式齋門標

末三月廿五日

對付齋經羅經指舞時於對以上
對付齋經羅經指舞時於對以上
對付齋經羅經指舞時於對以上

三人 阿伏前齋經水蓮土山夫吳齋同觀

（將齋經阿田蓮太源丸源顯）

齋經指來時

此田齋經指來時可尚幾齋經指來時

惠 宗南

文類六未半十日 同齋經指

齋經指來時可尚幾齋經指來時

齋經指來時可尚幾齋經指來時

京齋經指來時

（琳理齋吉田太源丸源顯）

齋經指來時

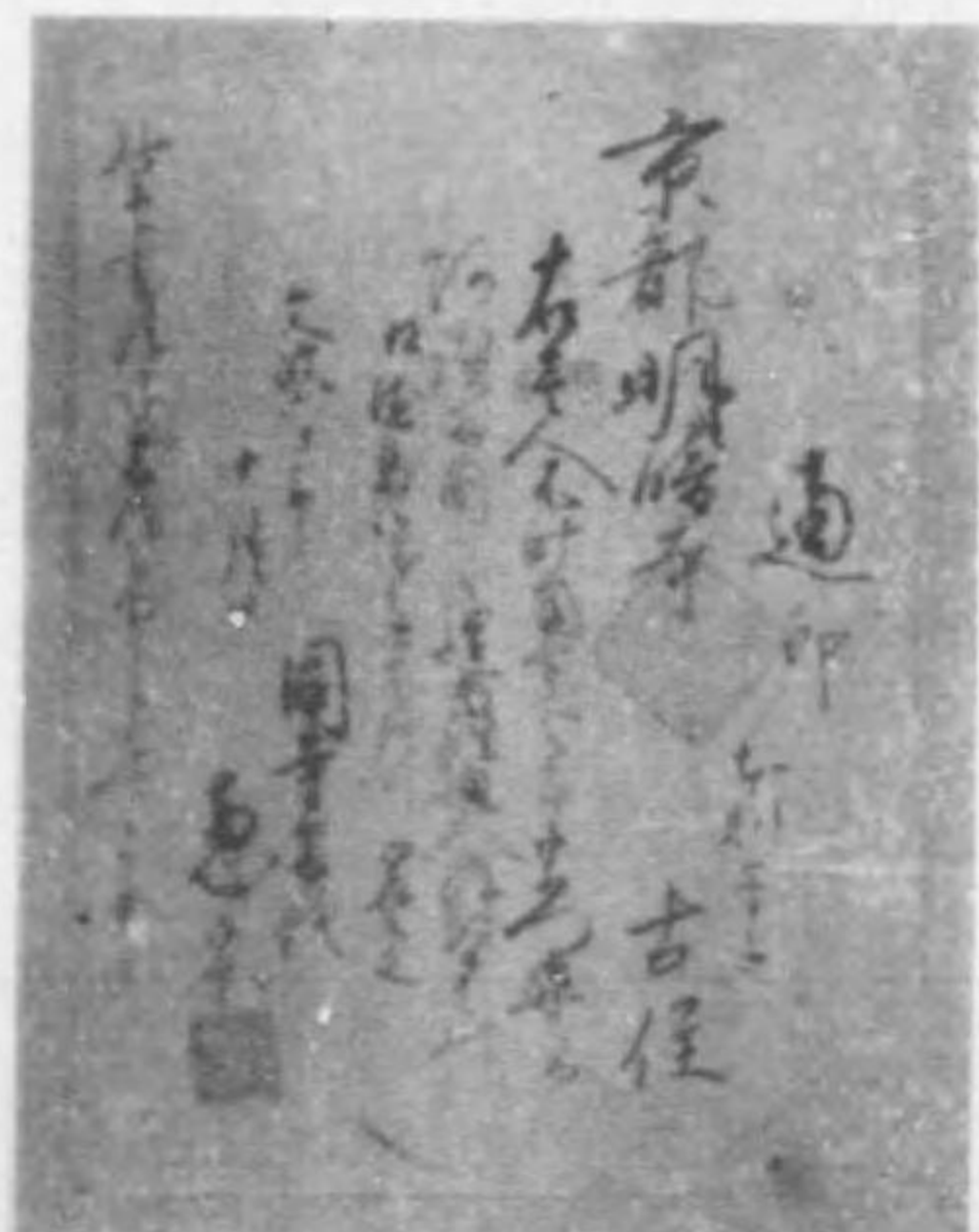
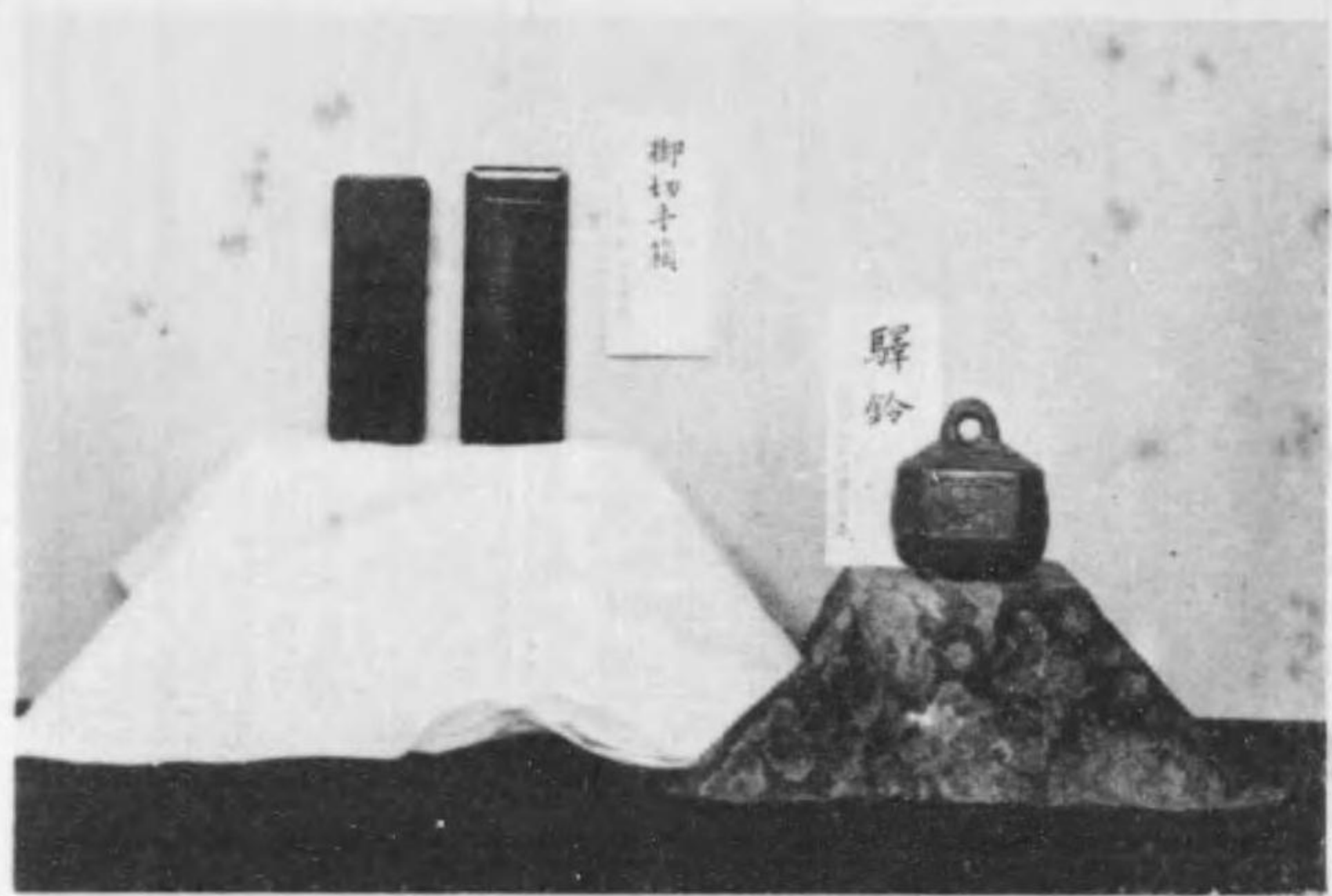
齋經指來時

（應齋經立其伊源顯）

齋經指來時

（琳理齋永其齋經指來時）

齋經指來時



弘化二巳年四月

原與右衛門殿

丈

六

寺 ⑩

御番所通行手形

覺

上山村下分

一男壹人	由	太	郎	一	同壹人	三	代	太
一同壹人	惠	吉	藏	一	同壹人	榮	太	郎
一同壹人	岩	藏	才	一	同壹人	武	三	郎
						助		

(德島市吉氏所藏)

右之者共儀伊勢參宮立願仕度候に付此度爲參詣罷越申度旨申出候川口無相違御通被成可被下候以上

嘉永五子年三月

名西郡上山村下分組頭庄屋

粟飯原源太郎 ⑩

同村五人與

仁志長次郎

同

飯原直兵衛

同

横山權兵衛

一〇九七

同 同
芳 藏
粟飯原儀次郎

津田川口
御 番 處

御 番 所 通 行 手 形

(那賀郡 貴田岡直信氏所藏)

僧女四人那賀郡岩脇村修驗貴實院弟子亥道同大照貴實院妻右は四國遍路令修行候條於在々處々御番所舟渡宿等不可有異義者也

安改七申年閏三月四日

赤川 大次郎
稻田 幾太郎
阿州處々 御番人中
同 在々 庄屋方へ

難船の際浦邊の者心得方申付覺書

(坂野郡 森苞樹氏所藏)

一江戸大廻り之諸賣船沖相又は湊元難儀に及或船破損之刻類船之船頭並加子共理不盡之仕合横領仕盡候條其方組下浦邊之者共堅申付左様之族不仕候様に可申付候若相背者於有之急度可爲曲事候以上

戊七月十一日

林 大 學
野々村 左 門
稻田 三郎 兵衛
板野郡別宮浦庄屋
森當 左衛門方へ

難破船其他に付心得方覺書

(坂野郡 森苞樹氏所藏)

一先年從御公儀被仰出浦々へ御觸被成候御制法之通彌堅可相守事
一御兩國他國へ被雇罷越船頭加子猶以御公儀御法度之趣船宿問屋に相尋堅可相守付御兩國之廻船荷物何にても沖合にて賣買仕間敷事
一他國船破損之節船々以下其浦々にて賣申度と申上候郡奉行へ申達其上にて相對を以買取其品々々浦手形に書のせ互手形取かはし可申事

亥の二月廿八日

沖 平

六
一〇九九

御番所通行手形
上下貳人。

松平阿波守家來
杉野由喜次
(德島市 杉野直行氏所藏)

1100

右者今日出立國許に差遣申候間御通可被成候以上

丑十月八日
松平阿波守内
角田所左衛門 印
諸御番所御番衆中

御番所通行手形

(海部郡 鈴木彌平氏所藏)

覺

一男壹人

半三郎

右者年來合藥商賣大坂立賣堀四丁目鈴木屋彌兵衛より取次仕來候に付此度御國中處々爲得意廻罷越候間往來無異儀御通可被成候以上

寅二月

安喰浦與頭庄屋
界 寛 内 印

處々
御役人中

同浦與頭庄屋
百々伊之丞 印

御番所通行手形

(板野郡 安藝龍平氏所藏)

覺

男壹人

板野郡吹田村無役人
安藝十太夫

右者與州道後へ爲入湯罷越候條罷歸候節其御番處無異儀相通候以上

未十一月二日

太田章三郎 印
大坂口御番人中

東海道上り御先觸書

(德島市 多田仙次郎氏所藏)

覺

一人足
内貳人用意
拾壹人

1101

一馬 五正

内壹正輕尻用意

右者此度國許に罷歸候に付明後朔日江戸出立東海道桑名道十一泊十二日迄旅行候條御定賃錢受取之宿々無滞可被繼送候尤此觸狀於伏見受取可申候以上

三月廿八日

東海道桑名道

阿州蜂須賀伊豆内

村山五郎兵衛

宿々問屋

年寄中

川々

役人中

宿割左之通

五日金谷

佐塚佐次右衛門

四月朔日

戸塚

吉田安左衛門

二日小田原

中川太郎右衛門

箱根休

又原彌五左衛門

三日沼津

中村九左衛門

四日江尻

望月與三右衛門

六日濱松

川口次郎兵衛

附) 儀者二條御番衆様御泊に而御差支奉申上候依之外宿借請乍御不自由御案内可申上候以上

御宿被仰付難有仕合奉存候然所私宅之

七日赤坂

清水市三郎

御定御本陣

附) 御先觸到來仕候處御番衆様に差支以飛

箋) 脚御供走迄御注進奉申上候以上

八日宮

小出太兵衛

九日四日市

黒川彦兵衛

附) 今般御止宿被仰付難有仕合奉存候然

處二條御番衆様御泊に付差支候間外宿

箋) 見立御案内申上候以上

四月九日

黒川彦兵衛

十日土山

堤忠左衛門

十一日艸津

島田十右衛門

十二日伏見

針屋正九郎

上下人數貳拾五人

内九人日雇本陣入

參考目錄

傳馬所建築趣法寫

名東郡

榎本儀市郎氏

雜類

雜類

一の宮城跡之記

古城臺六ヶ所

本丸 長拾六間幅十一間四方石垣高二間より二間半東に木戸口幅一間半門臺石垣高二間半幅

二間四方

明神丸 豎拾八間横九間一宮大明神社地跡

才藏丸 豎三拾三間幅七間小田才藏と申家臣此丸持口に而才藏丸と申傳

水手丸 豎十八間横七間用心水圍置地にて水の手の丸といふ此丸下今に水田也

椎の丸 十間四方

小倉丸 豎三十間横六間小倉進之守といふ家臣此丸持口に而小倉丸といふ

右之臺夫々委細に相分候拾三丸と申候とも右之外尾筋少し宛之平地に而臺名詳成不申候尤藏床

二ヶ所あり此地には米麥大豆小豆之類燒只今其粒委敷相分り居申候

居城之地

(名東郡笠原辨一氏所編
一宮城跡之記中抄出)

右山之麓に而今田地に相成地名土井と申村中に相成居申候居城は其節相残り候由 阿波守様御先代様御入國之御砌暫時に當處に被遊御座候而徳島御城御築被遊候よし御城内楠御門外御厩とは爰を御引被遊候由右城地田地に相成堀川は只今用水溝跡地名も御厩東門外と申候町筋は今に堅横又は小路に相成本町横町北町船戸町杯と申籠町並に今以行渡り申候

男女落髮並他國商人心得方御觸寫

(津浦郡多田勝太郎氏所撰 藩署紀開中抄出)

一郷中郡付輩男女とも心儘に致落髮鉢ひらき申様に相聞へ候自今以後は法心仕度存意於有之は奉行所へ相伺可受指圖若於無其儀は不届至に候此旨與下村々不限僧俗一々可相觸候
一郷中へ從他國諸事商物積參問屋へ上り不申其儘船に罷在かたき商仕由相聞へ候向後は問屋へ上り申歟又は宿取賣せ可申候此旨與下庄屋中並御番人方へ堅可申渡候
右之通長谷川主計殿被仰渡候條可相觸候已上

貞享四年四月廿九日

井後直右衛門

祖谷山 舊記

祖谷山舊記并喜多源治家系成立

(美馬郡 武田浦三郎氏所藏)

往古は美馬三好一郡にて美馬郡と申候中興は三好郡と相分申候其前後當山之義右阿郡之間に挟り罷在候而西半分は三好郡之内東半分は美馬郡之内に而御座候其内三拾六ヶ名に相分御座候菅生久保西山大枝阿佐落合奥の井栗枝渡下瀬釣井今井小祖谷久及片山地平友行閑定大久保田野窪一字田野内戸の谷尾井田後山西岡徳善榎西中屋鍛冶屋平岸有瀬今久保名地座末

以上三拾六ヶ名

東西只今住居支配人左之通

一徳善名

徳善孫三郎

一菅生名

菅生四郎兵衛

高四拾三石壹斗五升九合

高四拾七石四斗壹升同人拜地

久保 右内

内拾三石壹斗五升九合御藏高

一久保名

久保 右内

阿佐高之助

高八拾六石五斗四升六合三勺

阿佐高

高百三拾四石三斗貳升八合

内五拾六石五斗四升六合三勺御藏高

阿佐高

内百拾四石三斗貳升八合御藏高

残て三拾石同人拜地

阿佐高

残て貳拾石右同人拜地

一西山名

西山藏之進

一有瀬名

有瀬益之丞

高五拾石三斗七合

内三拾石三斗七合御藏高

殘て貳拾石同人拜地

一田野窪名

高貳拾五石四斗五升七合貳勺

内五石七斗三升七勺御藏高

殘而拾九石七斗貳升六合五勺同人拜地

一今井名

高拾七石九斗壹升貳合同人拜地

一久及名

高拾貳石三斗六升壹合五勺同人拜地

一座末名

高五拾六石御藏高切替畠被下置

一尾井の田名切替畠無御座候

一一〇八

高四拾三石壹斗八升五合御藏高

一今窪名切替畠無御座候

高貳拾七石貳斗六升六合御藏高

一一字名

高貳拾三石三斗貳合御藏高切替畠被下置

候

一中尾名

高拾三石八斗四升七合御藏高切替畠被下置

置候

右合高百六拾三石六斗

右名々喜多源治支配仕候切替畠被下置候

一栗枝渡名

高貳拾六石八斗五升壹合六勺同人拜地

一田の内名

高貳拾六石三斗六升五合同人拜地

一大枝名 五人組 喜多角之丞

高七拾壹石四斗六升七合三勺御藏高

一下瀬名

高拾八石貳斗三升貳合御藏高

右貳ヶ名同人裁判仕候切替畠被下置

一釣井名 五人組 喜多熊之勤

高六拾壹石七升八合七勺御藏高

右同人裁判仕候切替畠被下置

一後山名 五人組 德善治兵衛

高拾八石七斗六升御藏高

右は同人裁判仕候切替畠無御座候

一戸の谷名

高貳拾七石貳斗三升御藏高

右は同人裁判仕候切替畠被下置

一平名 八木文左衛門

高三拾六石四斗三升四合五勺御藏高

右は同人裁判仕候切替畠被下置

一落合名 橋 又左衛門

高六拾八石貳斗九升四合九勺御藏高

右は同人裁判仕候切替畠被下置

一大小保名 青山武八郎

高拾壹石貳斗九升五合五勺御藏高

右貳ヶ名同人裁判仕候切替畠被下置

一奥の井名 松下源兵衛

高拾壹石七斗六合御藏高

右者同人裁判仕候切替畠被下置

一小祖谷名 石川瀧之進

貳ヶ名
トアル
モ一ケル
名也誤
肥力

高四石四斗四升四合五勺御藏高

右者同人裁判仕候切替島被下置

一片山名

名主

片山忠左衛門

高四石七斗壹升壹合八勺御藏高

右者同人裁判仕候切替島被下置

一地平名

名主

今井藤太郎

高七石五斗七升五合御藏高

右者同人裁判仕候切替島被下置

一開定名

名主

阿佐宅左衛門

高貳拾壹石五斗八升貳合御藏高

右者同人裁判仕候切替島被下置

一西岡名

名主

畑川權之進

高三拾貳石四斗六升貳合御藏高

右者同人裁判仕候切替島被下置

一一〇

一榎名

名主

三木吉之助

高貳拾貳石五斗壹升貳合御藏高

右者同人裁判仕候切替島被下置

一西名

名主

播摩幸左衛門

高拾七石八斗六升貳合御藏高

右者同人裁判仕候切替島被下置

一中屋名

名主

下川長兵衛

高拾貳石八斗四升六合五勺御藏高

右者同人裁判仕候切替島被下置

一鍛冶屋名

名主

安樂寺

高貳石三斗六升六合御藏高

右者同人裁判仕候切替島被下置

一岸名

名主

影山伴左衛門

高五石四斗六升四合御藏高

右者同人裁判仕候切替島被下置

一谷地名

名主

青野小兵衛

高拾貳石七斗貳升四合三勺御藏高

右者同人裁判仕候切替島無御座候

右谷々神社數多御座候先年夫々相改指上

候に付略仕候

一寺三ヶ寺左之通

鍛冶屋名

名主

安樂寺

久保名

名主

集福寺

菅生名

名主

圓福寺

當山之儀は行程南北七里東西拾三里程南は土州境に連り右之名に相挟り怪有之幽谷希代之高山に而御座候得は落人之隱家に宜御座候故歟昔時保元平治之乱も壽永元曆之乱世と遁れ當山に落籠り申候士族之末其後後嵯峨院北條之乱當山へ免れさせられ栗枝渡と申所へ入御成らせ崩御被遊候其所に一社奉造營其玉牌則栗枝渡之八幡宮に奉崇稱昔より常盤之祭祇仕當山之惣鎮守にて御座候御神跡之玉牌販宮梁天大禪定門尊靈右之通に御座候應永廿五戊戌永正八辛未歳再興之棟札宮中に御座候右配帝護衛之御釵之よし大枝名に鉾大明神と奉尊稱往昔より其所の氏神にて御座候一説には平氏之落人持來候を鉾大神と稱説仕候とも申傳候間卷之説にて傳記無御座難相分

り御座候並粟枝渡八幡宮之御社に配帝御持來之朝千鳥と申琵琶又白瀧とも申由宮中に御座候所
元和貳年

澁谷安太夫殿御意之趣を以被爲召上候右之仕合祖谷山往來之名主共苗祖は地下之下民にても無
御座代々之落人にて名々を開き自領仕累代後胤をつき罷在三好家盛時は其幕下に屬長曾我部四
國動乱之砌は其權威に隨り罷在折柄

蓬庵様御入國被爲遊候御砌數度御召雖被爲遊依不奉應御國命御追討之御人數を御指向被爲遊候
處惡黨難所に方便と搦る追而御人數多落命仕候此時に至り私先祖北六郎三郎同安左衛門美馬郡
一字山に罷在兼而祖谷山案内之義に御座候へは惡徒誅討奉乞請方便と以過半は降參仕候由降人
之者召連罷出名職と申與へ無相違被爲下置候不相隨族は或斬捨或擲捕罷出候其次第左に記申候
菅生名主 柳原織部介 久保名主 阿佐兵庫
西山名主 橋主殿之助 阿佐名主 阿佐紀伊守
德善名主 國藤兵部 有瀬名主 橋右京進
右六人早速降參申に付御目見被爲仰付候持懸之名職被爲下置候

大窪名主 青山右近 小祖谷名主 石川備後

此貳人も右同斷

一後山名主 國藤左兵衛 片山名主 片山與市

地平名主 今井藤太 關定名主 阿佐六郎

戸の谷名主 川村源五 谷地名主 青野新下

西岡名主 堀川内記 西名主 播摩平太兵衛

中屋名主 下川與惣治 友行名主 佐伯彦七

此拾七人も追々降參申に付召連罷出右同斷に被爲仰付候

一下瀬名主 大江出雲 久及名主 香川權太

釣井名主 播摩左近 今窪名主 中山藤左衛門

榎名主 三木兵衛 一字名主 田宮新平

平名主 八木河内

此七人之者共重々御國命相背不相隨剩土州方を取持狼藉之仕方に付北六郎三郎同安左衛門父子
として打亡申候

落合名主 橘 大 膳 大枝名主 武 集 平 馬
 尾井田名主 大 野 主 馬 今井名主 黒 田 監 物
 田野窪名主 横 田 内 膳 田野田名主 坂 井 大 學
 鍛冶屋名主 轟 與 惣 岸 名 主 影 山 將 監
 奥野名主 松 下 平 太 栗枝渡名主 松 家 隼 人
 重末名主 本 多 修 理

此拾壹人之者共も重々御國命相背右七人之者共と一味徒黨仕土州取持御敵對申所徒黨之内七人先達而六郎三郎安左衛門斬亡申に付住所忍出申所六郎三郎安左衛門父子追懸參り讚州鶴足に而拾壹人擲捕安左衛門義は彼地方直に渭津へ囚人引連罷越言上仕候所御糺明之上早速御成敗被爲仰付候六郎三郎義は右拾八人之類族共何事か相企可申哉其段難心得鶴足は祖谷山へ罷歸十八人之類族共不殘召捕渭津へ罷越右之段言上仕候所科の輕重により重きは御成敗被爲仰付輕きは爾來御國命に可奉相隨旨起請文被爲仰付御赦免被爲成遣候

一右之通に騒動相鎮天正拾八年は私先祖北六郎三郎祖谷山相治め申候雖然根元深山之儀故住居人少く御座上罪科人之名主拾八人之類葉數拾人亡失並に右之惡黨に荷贍仕候下部共多欠落仕候に

付其高は名々亡所仕御爲成申程之貢物無御座候に付當時六郎三郎了簡と以少々出來仕候厚紙を取立上納仕候尙又六郎三郎安左衛門父子了簡を以所々より住居人を日々に招寄憐愍を相加へ民家多く罷成候様に相斗申に付次第に數人有附田高を切開き申候依之早々貢物成申者も出來仕候に付六郎三郎安左衛門存志之通次第に増相し候に付慶長九年其趣意言上仕候所御上は屹と御檢地等を被爲仰付候而は遠山嶮岨と申殊更土州と御國御境目故指當り難被爲仰付候間先目通を以名々高と相定め貢物指上候様に被爲仰付右同年六郎三郎安左衛門目通を以名々相改高合百三拾石と相定め夫より名々高に應御年貢料之厚紙上納仕申候其後尙々民家多く相立候様にと了簡仕に付年と追日を増民家彌整榮仕候而山々谷々夥敷地ならせ貢物品茶煙草麻芋木地鉢同盆檜完料大豆小豆等出來仕候に付指上申候並名主共御目見被爲仰付候節鹿皮銘々差上候其後御年貢檢完料と相極め今以代銀と以御取立仕候誠に祖谷山之儀は土刃御境目に而兩國之下民日夜應對仕少しに而も我々勝手宜敷方へ相極申に付諸事御免被爲遊可然旨申上候所被爲聞召届御檢地之義は其方了簡に任せ下不相痛御爲成り申様に可仕旨被仰付候安左衛門申上候は近年田高民家繁昌仕候條尙又御見分のため又は不調法之私一存を以了簡仕候段還而未々之存入も如何に御座候屹と御城下は何れに而も御指加へ被下候は御檢地可仕旨申上候所山田松軒殿馬場無人殿内海重左衛

門殿御指加へ被遊安左衛門目通を以御檢地仕御帳面指上申候然所右之御趣意を以御檢地御帳面御上より御定不被仰付安左衛門記置帳面を以慶長拾七年以來惣高合千百九拾三石九斗三升八合と相究り御年貢上納仕候貢物諸品面々持懸り物差上申候尙又切替島等所持不仕者は御慈悲を以御檢地高引被爲下置候御證文左に記申候

急度染筆候仍而其谷名主共持來之名職當檢地之上等無之分爲扶持指遺置者也

慶長十七子七月八日

蓬庵様御書判

祖谷山中

名主共

其方御手前切替無之分御扶持被成下御書通うし進候已上

慶長拾七子年九月十八日

澁谷安太夫

御書判

名地孫八郎殿

参る

覺

一高五石貳斗三升五合

祖谷の内

後山

一高壹石五斗三升

同

名地

一高四石三斗八升九合

同

かいの内

一高四石九斗壹升五合

同

峯名

四口高合拾六石六升九合

右彼地切替切島無之に付爲御扶持逢庵様御代より被下來候故終に役儀無之候自今己後も此高の分無役に被仰付候條被得其意可被申渡候何れも相談を以如此に候已上

正保五年閏正月十六日

森佐野左衛門御印
津田新五左衛門御印
賀島主水正御印

村尾藤左衛門殿
梯彌治太夫殿

一祖谷山惣高千百九拾三石九斗三升八合

内五拾三石貳斗壹升六合六勺

同五拾石

今井名
入野名

同四拾七石四斗壹升

栗枝渡名
田野田名
喜多源治
小野寺八郎左衛門
菅生四郎兵衛

同 三拾石
同 三拾石
同 貳拾石
同 貳拾石
同 拾六石

後山尾井田名谷地
峯名右四ヶ名

切替切畠御引被爲下置引高

引高合貳百九拾六石六斗九升五合六勺
殘て高八百九拾七石貳斗四升貳合四勺
此物成三百三拾壹石九斗八升六才御請納升
三ッ七步

延米六拾六石三斗九升六合壹才

本延米合三百九拾八石三斗七升六合七才

此檜完料四千七百四拾貳丁五步七厘貳毛

但壹丁に付米八升壹合宛

此代文銀札貳拾六貫百六拾貳匁壹分九厘八毛

一一八

西山龜之助
久保右内
德善孫三郎
阿佐高之助
有瀬益之丞

但壹丁に付銀札五匁五分壹厘六毛五拂

一米貳拾貳石六斗六升貳合 上毛米京升

此檜完料貳百六拾九丁七步八厘六毛

但壹丁に付米右同斷

此代文銀札壹々四百八拾八匁貳分七厘四毛

但壹丁に付銀札五匁五分壹厘六毛五拂

貳口米合四百廿壹石三升八合七才

此檜完料

合五千拾貳丁三步五厘八毛

此代銀札

合貳拾七貫五拾目六分七厘貳毛

一文銀札貳貫八百七拾參匁夫役銀壹ヶ年分

此檜完料六百七拾六丁

但壹丁に付四匁貳分五厘宛に而

去る午の年迄件之通被召上

此代文銀札三貫七百貳拾九匁壹分五厘四毛

但壹丁に付五匁五分壹厘六毛五拂

御年貢完料代に相唯し被召上に付右直段

を以上納仕候

惣檜完料合五千六百八拾八丁三步五厘八毛

毛

惣代文銀札

合三拾壹貫三百七拾九匁八分貳厘六毛

一上茶千斤 但し壹斤秤目 貳百五拾目宛

一下茶貳千五百斤 但し壹斤秤目 三百七拾五匁つゝ

右上下茶貳口合三千五百斤

此米拾五石七斗五升

但上下茶平し壹斤に付米四合五勺宛

一麻芋百貳拾貫目

此米拾四石四斗

但芋百目に付米壹斗貳合つゝ

右芋茶之儀先年々右之通御年貢繼に候へ共西尾清藏様御代官御勤被遊候節正保元卯年より浮御
所務被爲召上候右代米名々へ高割に仕御取立仕候

一祖谷山高取共へ被下置候御誓紙并御書之寫左之通

美馬郡祖谷山之内於所々高合五拾石目録在別紙事遣候條可令全所務之狀如件

慶安元

忠英様御判

極月廿日

喜多八郎次郎

知行高目録

一高拾貳石三斗六升壹合五勺

美馬郡之内

一高拾七石九斗壹升貳合

久及村

一高拾九石七斗貳升六合五勺

同今井村

高合五拾石

同田の窪村

慶安元極月廿日

御黒印

喜多八郎次郎

手前持懸之名職當檢地高之内を以四拾七石四斗壹升遣置候條彌奉公不可有油斷者也

慶長拾七七月八日

管生四郎兵衛とのへ

手前持懸之名職當檢地高之内を以三拾石遣し置候條彌奉公不可有油斷者也

慶長十七月八日

西山源四郎とのへ

今度見鷹打落致持參候段懇志不淺然は爲褒美従手前上年貢之儀於末代令扶助畢後彼谷中之義無油斷於當方馳走可爲肝要者也

天正八十二月朔日

家政様御書判

いや谷 徳善

手前持懸之名職當檢地高之内を以三拾石遣候條彌奉公不可有油斷者也

慶長十七月八日

徳善孫三郎とのへ

美馬郡祖谷有瀬之内谷村名高合貳拾石也遣候之條可令全所務之狀如件

慶安元極月廿日

忠英様御判

有瀬字左衛門

分國阿波美馬郡之内於祖谷高合貳拾石遣候條可令全受納之狀如件

慶安三極月廿八日

忠英様

阿佐次郎左衛門

覺

祖谷之内

一一三

一高拾石五斗は

かしと村

一同九石五斗は

小川村

高貳口合貳拾石也

右は此度其方拜知分御折紙被下候所務之儀は我等書附可遣旨就御意如此に候以上

慶安三年極月廿九日

賀島主水正御印

阿佐次郎左衛門殿

一蓬庵様高野山へ御出被遊候節久保源四郎其外之者共登山仕奉窺御機嫌候所御感に思召其後御書被成下候右同家に所持仕候

先度者爲一禮相越候段尤祝着至に候彌當方無疎略於令馳走者面々身上之義不可有如在者也猶川口兵左衛門口上に相合候條可成其意候不能子細候申□□

八月二日

蜂須賀

家正御判

菅生とのへ

西山とのへ

落合とのへ

くやとのへ
此外惣中

右七人之高取共先祖筋目正敷者にて持傳之御論旨諸將々感狀又は箆印等銘々所持仕罷在候

一光隆様畑山大毛山御狩之節喜多源内勢子大將被仰付右七人之者共其外名主共召連罷出候

一御代々様御巡見之節喜多源内初其外高取方池田町脇町廻番被仰付候並爲御雇人夫被仰付三百人

餘名主名子共召連罷出候諸役御免地故爲冥加御扶持方之義は乍恐御斷申上頂戴不仕晝夜相勤申候

一惡黨相鎮一旦亡所仕候場所再興仕候に付私先祖彼是才覺を以名々納得仕せ或田地賣買養子入簀

等之儀任存旨勝手次第承届住居仕らせ不埒人等在之候へは糺明之上名職取上谷中追放或は牢舍

品により成敗も仕其名職田島等了簡を以外人相居候に付散田と申事無御座候尤空地と申場所

も無御座候

一祖谷山へ被遣御手板之寫左之通

祖谷百姓等令逐電者共當於國中誰々雖抱置早々及斷可取返候若抱人逸乱候はく可爲曲事之條

急度渭津の可告來候少も不可有油斷者也

慶長十貳年正月五日

蓬庵様御書判

一一三

一大坂御陣之祖初祖谷山高取德善孫三郎窪又藏菅生源次郎右四人之者御城内御廣間御番被仰付候
島原一揆之節喜多龜之助同源内始其外高取共御人數に御指加へ被遊旨被仰出罷下候其内一揆亡
ひ候に付歸山仕候

一同御陣之節名主共土州御境目口々堅め被仰付候名子召連罷越候島原一揆之節も右同斷名主共義
平生脇指御免被遊候御用之砌は大小帶仕候此段切替島爲御扶持被下置候に付御扶持人に相立候
故右御用等被仰付候

一五人組共平生大小帶仕候御境目御爲堅め私先祖申上右之通被仰付候

一慶長年中安左衛門に澁谷安太夫殿御指加へ被遊祖谷山東西を分西分は安太夫殿御裁判被成候東
分は安左衛門裁判仕御年貢諸政道兩人申談相勸申候元和三年

蓬庵様爲御意祖谷山中名主持傳之刀脇指遂詮義指上可申旨安左衛門に被仰付段々相改指上申候
刻安太夫受取手形左之通今以所持仕候

一伯州住安綱貳尺五寸直又

一同作之脇指壹尺七寸五步大乱又

一粟田口權守久國壹尺七寸五步

一越中松倉郷義弘貳尺三寸玉直又

一相州住人五郎入道正宗貳尺三寸六步

一豊後國行平九寸五步直又

右六腰之道具栗田渡名主所持
一三條小鍛冶宗近貳尺八寸直又
右は阿佐名之内九鬼大學所持
一筑後國三池傳太貳尺五寸直又右は鍛冶名主
所持
一相刃正宗貳尺八寸直又右は奥の井名主所持
一備前國正恒貳尺五寸直又右は菅名主所持
一河内國素包平貳尺七寸直又德善名主所持
一山城國來國俊貳尺六寸窪名主所持
一備前國正家貳尺四寸小乱又西山名主所持
一奥州住人諷踊貳尺七寸直又落合名主所持
一粟田口住人有國貳尺三寸五步直又大枝名主
所持
一山城國來國行貳尺三寸五步丁子乱又
右は田野窪名主所持

此 度

蓬庵様爲御意祖谷山中名主持傳之刀脇指遂々遂詮儀相改目錄之通貳拾七腰受取申候拙者義罷歸右

一備前國長光貳尺三寸五步直又有瀨名主所持
一關住外藤貳尺七寸小乱又釣井名主所持
一筑前左貳尺七寸小乱又
一關住金重脇指壹尺九寸乱又大小今井名主所
持
一相刃山内住人助眞壹尺八寸直又久保名主所
持
一筑前國左脇指壹尺八寸丁子乱又岸名主所持
一大和國興福寺貳尺五寸直又一字名主所持
一大和國千壽院行信貳尺五寸直又大小重末名
主所持
一粟田口則國壹尺八寸乱又
一越中國住人則重貳尺五寸玉又田野内名主所
持
一大和國包永貳尺六寸五步直又尾井の内名主
所持

申上代物之義は追而否可申達候條御自分々名主之面々方へ右之通御申聞可有之候以上

一一二六

澁谷安太夫

元和三年巳霜月十一日

御書判

喜多安左衛門殿

右之代銀元和六年迄御否無御座候に付差上人之内都合拾七人名主發頭仕百姓六百七拾人餘召連安太夫殿に對訴狀指上蓬庵様御佛詣之節於途中直奏仕候右之内落合名主彦七井の内名主七左衛門大枝名主孫太郎岸名主又兵衛平名主孫四郎一字名主新太郎

右六人之者御糺明之上其科相極磔之罪に被仰付その内彦七男子伴三人七左衛門男子之紛貳人所持仕候所安左衛門を以御意成敗被仰付候

今井名主藤左衛門釣井名主藤十郎田の窪名主彦三郎重末名主六郎三郎鍛冶屋名主與五郎右五人之者御糺明之上御成敗被仰付候

西名主彦太郎中屋名主彦十郎戸の谷名主彦次郎久地名主孫八郎閑定名主七藏地平名主藤太郎片山名主彦一郎

右七人之儀御糺明之上其科御赦免被仰付再度不尋申上間敷誓紙被爲仰付其儘御立置被遊候六百

七拾人余之百姓は科赦免被仰付此時名子と被爲仰付候私先祖安左衛門を以心儘に召仕候様に被爲仰付候以來今以先格之通私代迄裁判仕候

一前段に申上候通御檢地帳御渡不被遊候に付野帳迄[△]而取立仕候野帳も無御座候へは右之懸に代々御取立仕候

一延寶年中森久兵衛殿祖谷山棟附御改被仰付候節田代元名負無之者共夫々持懸田地高名負地居に仕候右御帳面に書上申候是より中興之地居に仕らせ置尤時々賣買給人等有之候節先格之通其名田へ外人仕付刻名負に仕候今以右之通に御座候

一祖谷山田地賣買之儀代々御代官所にも御案内之通元名負無之而も田地持懸に賣買仕來刻私之與書裏印等にて相濟來候尤近來御代官所裏印請候義四五通有之候誠に萬端山中相治り自他郷人追々入込候故里方之類共承傳相望候者には御手代之裏印相願遣候由申傳候へ共私代に罷成右之類願出候者は無御座候前々成行之通にて相濟候是等之趣 蓬庵様御證文之趣御威光を以政所と御立置被遊候に付乍不調法相治り御年貢無滯上納仕らせ其外末々神妙に罷在候様に制道仕候段私家根元之御奉公無他事聊も私に新法々間敷儀相立不申に付先格之通了簡仕候然共末代至諸事不調法故自分格式等も相立不申様に罷成候故政所号迄にて惣而郷中小高取同然に御座候故自然と

一一二七

末々之者共迄下知等相背申哉之品も有之故去る元文二巳年祖谷山御檢地場所に相當候に付指出帳面可仕旨然共嶮岨之場所人夫等數多費名子共差當迷惑可仕候若又御爲成筋有之願出候は、可遂詮義旨御藏所御書附と以被仰渡候依之名子共召寄詮義仕御檢地御指延被下候は、御年貢増可奉願旨一統に仕候内東分阿佐名釣井名落合名大枝名四々名之名子共兩度に百拾人余不覺悟之者共有之一統に相洩不埒之仕形御藏所直奏に罷下候其砌數度往來仕彼是了簡と以相鎖御請壹つ成相増上納仕度奉存旨奉願候處被爲聞召届於祖谷は聊之御請増に候へ共年來其方御用方大切に仕先代御諸事相鎖潔白之勤方相聞此段奇特成志に候賀島出雲様へ逐一御聽に入御承知被成難有被仰出候段御藏所御奉行様御書附を以被仰渡候其上御藏所へ直奏仕候名子共義私下知に相振彼是御用筋相妨事々間敷私手元を相離申仕形重々不届思召先旅宿へ追込被成旨出雲様被仰渡候追而右科之義は私重々御免と奉願其通にて御赦免被仰付候以來相鎖候様に尙又申付候誠に私身分御立置相立候様被仰付乍恐重々難有仕合に奉存候

一當子年余り地御改被仰付に付名々へ罷越相改候處釣井名之者共發頭之名子拾六人相進め一名一統仕私之心得に而申付候坏と申出し余地御改御請不仕段々不埒申出逸々口上書仕らせ其旨私方紙面と以御藏所申上候處賀島出雲様當郡御奉行様へ御吟味被仰付早速右十六人之者共被召

寄御詮義被成候所心得違之旨申上候所出雲様被仰出候は先年御年貢増之節も不埒申出又々々此度右様之仕合重々不届に思召發頭之内七人牢舍被仰付九人は旅宿へ追込被遊候依之此節に至惣谷中末々其旨承知仕万端相鎖候様之物□に相聞我意新法相立不申段明白に御座候於私難有仕合に奉存候

一祖谷山高取名主名子共諸出入又喧嘩口論に至迄先規政所へ申出私代々了簡仕双方納得仕候得は其通に而相濟其趣之輕重により追而御奉行所へ申上置候私一存にも難相濟義は谷中高取之面々相招き及相談成來候通許容仕候而相濟せ候何れも了簡に不相及程之義は早速其趣申立御奉行所へ申上候右之仕合故出入等御城下へ罷下り申儀は事少く御座候今以右之通了簡仕候得共近年は毎々出入等之差起り御役所御繁多に罷成候段偏に私不調法故と奉存候其上郷中庄屋同然之身振に罷成候に付名子共も蔑に仕其上郷中之不埒者近國之浪人等當時寄所無之一日暮之族不相辨山分之者様々に相迷し金銀酒食を貪惡心と相進勝手々間敷事のみ申聞候得は此事に隨跡方もなき事とも目安に記し御城下へ相下り直に御奉行所へ奉願候様にと進入騒動仕候其日數と渡世に仕候様に承及候御吟味相候へは最初事々間敷申立候義證跡も無之只迷惑仕心得違坏と申上後悔之族誠に末々困窮之基と罷成惣而祖谷山之儀 蓬庵様被段々被仰付置御詮義御成行外郷申とは格

別に御座候に付祖谷山御成來之儀外在々へ委細には不相語惣而何事も猥に不相洩様に仕候段乍恐御軍法之御筋にも相懸候様に申傳候

蓬庵様至鎮様忠英様は御直に御窺御奉行所へも御密談仕諸事格別之場所にて御座候に付私之心得にて何支に而も内分に而御奉行所を離れ他村之御役人杯へ相談仕候義無御座候右申上候惡黨共糺明仕筋も御座候へ共差當り私之心得に而も難仕又は御爲成申筋共御座候也恐多存外に罷過候

一 去る亥年二月釣井名主名子共一統仕名主熊之助御年貢御取立不埒之仕形□敷趣に而御代官所へ相訟御年貢之御糺被下候様に紙面差上去八月發頭人共罷下於御當地上納仕度旨奉願候所藤川重兵衛様願之通御聞届被成釣井壹名之御年貢御道付を以差上候如斯御年貢も同然に上納仕候是等之趣 蓬庵様御代より終に無之儀に御座候熊之助に不限谷中御年貢御取立之事私方名主共へ皆濟手形相渡惣取立之儀は私方に而御算用相縮一紙を以納仕御代官所も皆濟之御一紙私方へ被遣候然所いつの程より御代官所御手代も皆濟受取被相渡候昨今年は右釣井名出入に付候故にや御手代も請取皆濟も相渡不申候

一 祖谷山諸出入に付御糺被仰付候節谷中高取共又は他村之庄屋等外御役人被仰付候儀古來も無御座候諸事私之手元御尋被成候

一 祖谷只今家數三千軒程も可有御座候右之内御檢地名負人百人餘も可有御座候其外は元名負人無之者共代々田地相續仕候此義別書に委仕候今度餘地御改被仰付候に付先規之通逸々田地持懸に名負地居に相極御帳面仕候

一 祖谷山田地永川成日損水損無作之節也も御年貢少も相滯不申飢人等御座候節も御扶持方御願不申上時々私之手配了簡を以相救被申候世上飢人多御座候節は御慈悲を以祖谷山飢人之有無御尋被遊一統に難有奉存候私其節御請申上來候節は飢人多御座候得共了簡を以尙又高取名主共へも手配仕壹人も飢に及申もの無御座候万一行足不申節は御慈悲奉願旨申上候得共先年々只今迄聊も御願之儀不申上候是等之趣は兼而御結構被仰付置候義故私了簡に及申丈け者手配仕候義私家代々之御奉公立に而御座候

一 先祖も祖父源内代迄屋敷近所に貳間に三間半之牢屋被仰付谷中不埒之者共有之候得は早速牢舎申附右之趣御奉行所へ御案内申上候且造作等之御願申上候内御上にも御事多源内義も病氣に罷成彼是年月立候内亡父源内代に至深山之儀雨露風雪に破損仕自ら其通に相過候

一 祖谷山百姓之儀前段に申上候元和之比徒黨の科によつて名子下人と被仰付私祖も心儘に召仕候依之諸役御懸物等不被仰付今以其通に御座候

一私先祖北六郎三郎以來私迄六代相續段々御結構被爲仰付難有奉存候

一私先祖之義は小野寺八郎藏人と申奥劔宮城之城出生之者にて御座候御國海部郡へ罷越正平七年後村上院繪旨頂戴仕朽田庄領地仕數代住居申候處小野寺備中代土州長曾我部と及合戦朽田を披き一字山へ引籠り居申候右備中嫡子源六郎は南八藏家之先祖にて御座候二男六郎三郎義は私家之先祖にて御座候

一蓬庵様御入國被爲遊候節美馬郡岩倉山曾江山之住人共御下知相背候に付右源六御呼出被遊相鎮候様被仰付奉長弟六郎三郎其外一族召連彼地へ立越無儀儀奉入御手候御機嫌之上天正十四年於一字山高百石餘源六に被爲下置候然る所祖谷山之住人源平之末葉數多相籠徒黨仕御下知相背候に付六郎三郎御呼出し被遊候祖谷山へ立越惡黨之者共相鎮め候様に被爲仰付奉長嫡子安左衛門召連祖谷山へ罷越候委細は別書に相記候相治候上蓬庵様御感被遊御結構成御意候上御證文被成下夫爲定使祖谷山へ罷越制道仕候右御證文之寫左之通
其方事いや谷へ致定使苦身之條爲堪忍分一名遣置候間彌祖谷東西之義無油斷令才覺馳走可爲肝要猶寺澤治郎之丞佐治九左衛門不申聞者也

天正十八年十二月朔日

家正様御書判

北六郎三郎殿

手前持懸之名職當檢地之上高廿六石余并田野内名貳拾六石余合五拾三石餘遣置候條彌無油斷奉公可仕者也

慶長拾七年七月八日

家正様御判

北安左衛門殿

一栗枝渡田野内名に付山川共於末代所務可被致候拙者方可申達旨御意候に付證文如件

元和三巳年六月三日

澁谷安太夫御印

覺

喜多安左衛門殿

一落合名大枝名釣井名今井名一字名今窪名地平名重末名尾井内名右九ヶ名之頭共令混亂に付此已後其元へ御預被爲成候并祖谷中名頭其外末々之者共に至迄心儘に相治万端心と付忠臣可被致候右爲御意面々方申渡一札如件

寛永五年辰正月八日

井村佐治右衛門御印
谷川六郎右衛門御印

喜多安左衛門殿

覺

一其方拜地粟枝渡田野内名に付百姓山川共於末代被下置候條雖有可存奉候右之趣我等方書付可遣旨御意候に付證文如件

寛永八年卯正月三日

賀島主水正御印

喜多安左衛門殿

一兼而被仰付置御軍法御役付左之通

一弓貳挺征矢共

一鉄炮貳挺玉藥共

一鎧壹本長柄

一馬壹疋

一人數十七人

右者御軍用之節指出答

一大坂御陣之砌

蓬庵様御供に安左衛門被召連御身付との御意に而御側近被召仕就御用高野山へも往來仕御懇に被召仕候

一寛永七年祖父源内雅名松千代と申候十三歳之時讚易壹岐守様御領丸龜萩原之地藏院の跡稽古に罷越候所植田之比野あいより六間餘之竈出來耕作人並早乙女おとへ申候松千代寺の懸出右竈

切留申候其刀隅州重吉作に今所持仕候若輩者大成働に驚き地藏院の松千代指辰申候其後壹岐様御聞被遊松千代御離被成度旨御家來前野善右衛門に地藏院御指添以兩使被仰下然共

蓬庵様は不奉伺御返答難仕御斷申置同年六月に親龜之助松千代召連罷下り右之次第と蓬庵様へ言上仕候所同月廿八日に松千代召連登城仕候様に被仰出父子共於御居間御目見被仰付御直に竈切留候働之事共委數御尋被遊御威之上御意被遊候者千松様は指合候條源内と名被下置則御盃頂戴仕候其砌岩田七左衛門様御居間御詰被成候所御床之御刀源内へ可遣旨御意被遊七左衛門様御持參に而御拵之御刀貳尺三寸五步京信國拜領仕候誠に以冥加至極難有奉存候尤今以家之寶物に仕候

一慶長元年龜之助に高五拾石爲御加増田の窪今井久及三ヶ名被下置旨被仰出候然所次男八郎次郎十八歳に罷成候相應之御用にも相立申度奉存候間右御加増高八郎次郎に被下置格別に被召出被下候は、難有可奉存候旨奉願候所尤と思召候旨奉願候通被仰出當小野寺龜之助迄三代家督無御相違被下置候

一蓬庵様至鎮様が私先祖へ御書被成下尤今以所持仕候恐多く奉存寫之儀は差扣へ申度奉存候得共其段如何敷左に相記し申候

急度染筆候仍而其谷名主共安太夫義様々不相届旨捧目安候雖然彼條數帳令糺明候へ共安太夫越度之族無之候併右條數之外如何跡之仕合候哉其段難計付而自今己後其谷使指止候而井村佐左衛門指越候條万端申談疎略不可存候 両三人方々可申聞候條答奉也
尚々井村も無隔心申談肝要に候已上

八月十八日

蓬庵様御書判
荒瀬 徳錢 菅生 窪
政所 安 右 衛 門

初鷹壹居早々到來令満足候自愛不少候尚條原佐左衛門方々可申候かしく
八月廿二日
千 松 様 御 書 判

喜多 安 左 衛 門 殿

乍恐右御書貳通とも御自筆と申傳家寶秘藏仕候私假名文字と一字に而御座候様
至鎮様御意被遊候は喜多と二字書候が宜鋪思召候條相改旨被仰出候

一正保五年四月十五日安左衛門諸式無御相違伴龜之助に被下置候節賀島主水様御披露被遊御禮申上候御樽代金百正干鯛拾枚指上候右御取次牧野傳左衛門様御受取所持仕候

一寛文十壹年龜之助跡式無御相違伴源内被下置候節病氣に付二月十日之日附を以山田豊前様迄飛札と御看指上申候右書狀文段并豊前様方御返書之寫左之通

乍憚啓上仕候然私親龜之助諸式無御相違拜領仕難奉存候乍恐右之御禮申上度奉存候御看壹折差上申候可然様奉願上候恐惶謹言

二月十日

喜 多 源 内
山 田 豊 前 様

其方義亡父龜之助跡目無御相違被下置難有奉存候爲御禮御看壹折差上紙面之趣遂披露候

恐々謹言

山 田 豊 前
御 名 乘 御 書 判
喜 田 源 内 殿

一私祖父源内迄年頭御目見御召出し被仰付干鯛拾枚宛差上御流頂戴仕候其節之御口口數々所持仕候

一光隆様御代年頭御禮申上候節御當時御機嫌御勝れ不被爲遊御家中御一統に御通懸御目見被爲仰付夫々自然と私共只今之跡に罷成申綱道様御代迄は諸事御結構被爲仰出不時奉伺御機嫌言上仕又は御祝義等之節御看指上來候所其以後何之御下知も無御座遠境に罷在候其上不調法故御訴訟も不申上奉迷惑候

一祖父源内代迄は右之通諸事御結搆被爲仰付被下候處源内代身振り惡布罷成候故末々申付義も
不相守猥に罷成り申候に付源内義先規之趣申立享保十四酉年郡御奉行中山九郎右衛門様へ古來
被爲仰付之御筋相立申様に奉願候得共其後何之御成行も無御座候私義至極不調法故政所退役
御願元文四未年郡御奉行所四宮歡太兵衛様へ紙面指上候得共何之御成下りも無御座候所寛保二
戌年郡御奉行下條成助様へ右紙面御指戻被成願指扣も可仕哉段々御入割被仰聞允何分相願候は
御名仕替可指出旨被仰渡候素りは悲奉願存念に御座候に付早速罷下り可申處私義病氣に罷成
延引仕候内成助様にも御退役被成候

一祖谷山義御國端遠境之義故御作法等難相辨譬鹿猿同然之族多く御座候其上往來より豫州土州入
組不届者之類多く群集仕無道之事共折々有之故況制道申付候へ共只今之私身振殊に以不調法第
一全難及裁判此以後何等之義出來可仕哉難斗案外之仕合彼是行當り迷惑仕候先祖之義は段々御
結搆被仰付誠に以不輕御證文頂戴仕罷在万端山中制道御威光を以心儘に相治り靜謐に御座候所
只今に至不甲斐生之私式重々恐入奉存候

一御家老中様方々之御狀並御國御奉行様郡御奉行様御代官様其外諸御奉行様より御用狀之類數通
今以所持仕候舊記要用之儀迄相認其餘長文に相成故省略仕候右は此度退役願紙面指上候處御請

持被遊被下祖谷山舊記私家系之儀も御尋被遊候に付書附差上申候已上
延享元子年十一月八日 喜 多 源 治

坪内庄太兵衛様御手代
園 木 通 左 衛 門 殿
棟札成來違背に付願上書

(名 東 郡 寺 所 藏)

一當寺檀那東宮大夫山城儀去未年居宅普請仕候右に付棟札之儀は如何仕候哉と當時方相尋候所山
城自分相調濟候返答申越候郷中儀者村々成來御座候一の宮村は古來方惣且那は勿論其内大夫庵
等迄檀那寺より棟札相調遣し候成來に御座候右様之近例則同所當寺且那西宮大夫大和義近年普
請仕候其節之棟札等寺へ頼來相調遣し申候山城壹人古來より之成來相背自分に棟札相調申候右
之懸りに御座候而は惣且那場定例之祈禱檀那寺より相勸候義混乱仕候哉と奉存候並に先祖年忌
等相當候而も此方へ何之附届も無御座候乍恐右奉願上候通乱りに相成不申様被爲仰付被下候者
難有奉存候以上

寶曆二申年七月二日 名東郡一の宮村 大 日 寺 印
下條成介様御手代 松原七兵衛殿

右之通當村大日寺奉願候に付私共奥書仕指上申候以上

申の七月二日

一の宮村庄屋	彦左衛門	印
全村五人組	藤七	印
同	所兵衛	印
同	安右衛門	印
同	與右衛門	印
同	和右衛門	印

阿波誌編纂資料指出方達覺書

(名東郡 今田和太四郎氏所藏)

下條成介様御手代 松原七兵衛殿

一 舊跡土地之申傳之事

但此ヶ條古寺跡亦是古城跡只今に而は年曆等も不相分け仮令健成証跡は無之候而も其所に而右様申傳有之場所は逸々相記証跡有無相記可指出候

一 山川之様子之事

但此ヶ條山有之場所は其村之東西南北何方に當り何山と申山有之趣川有之場所は何川と申川

有之川上何方より相流候趣相記可指出候尤大川谷筋里數相記可申候

一 田畑之様子之事

但此ヶ條其村々之田畑之善惡大綱之姿相記可指出候

一 神社 閣之事
此通り本書に有候得共落字仕佛閣と讀可申哉

但此ヶ條神社帳に出居申分其村之氏神等いちしるしき分並其宮之由緒等相記可申候佛閣其村々に有之寺院並由緒共相記可指出候

一 産物 珍敷品之事

但此ヶ條其村々に令出來候諸作物又は牛馬其餘野山に出來之品に而も專有之品亦是少々宛有之候而も珍敷品等并魚鳥等に而も珍敷品は夫々相記可指出候

一 人物 孝子良民 舊家等之事

但此ヶ條孝子は勿論良民は平生志宜敷善事と相行ひ憐愍之志し厚く諸人歸服仕候者亦是俳人歌人學者等舊家は不限貧福に古き家筋並由緒等有之家は其趣も委細相記可指出候

一 古物御判物之事

但此ヶ條何によらず持傳候重器或は御判物等所持仕者有之候得は委細に書立可指出候帝王繪

曾細川三好両家之判物源平時代之儀櫻間之池等之類夫々書記可申候

一在々所々御國に懸り候古記軍記等有來る板本之外少々之覺書に而も所持仕候へは指出し可申候

御用相濟次第返遣候ゆへ書替無之品に而も可指出候以上

寛政五年

子十二月五日

穗積早藏

右は御郡所様より佐野少進殿書附に猶又御ヶ條書御添被爲遊候寫し

佐野少進殿書附之寫し

一阿波志編集被仰附候に付舊記土地之申傳山川之様子神社佛閣産物多出來之品人物孝子良民珍敷候品舊家等其外

所持之古物御判物等委細に書立村繪圖相添指出候様仕度奉存候

一市中土地之申傳神社佛閣等同前に相認め指出候様仕度奉存候

一在々所々御國に懸り候古記軍記等有來る板本之外少々之覺書に而も所持仕候得は指出候様に仕度奉存候尤相濟次第返し候得は書替無之品に而も指出候様に御手配被成度奉存候

一右之村繪圖相添と有之候得共繪圖御用之義は追而繪圖師に被仰付候様被仰付候

尚々來春相延候而も格別之日延は無之候正月中には相約り候様に御心得可被成候以上

右之通佐野少進殿ヶ條書と以御誂出し之處尙又御郡所様より御添御書御ヶ條被仰付候條其村

々々右御ヶ條書之通夫々相分り候品は申傳に而も古く申傳候品は被申談其品々に相當り能相分り候様に相認め可被指出候尤右元取請持は沖州浦組頭庄屋太田龜之助へ被仰付有之候に付急々相認め指出候様申越候得共最早年内余日無之候其上急々出來仕筋合共不被存候に付來春早々迄御日延御願被成度旨龜之助方へ申達候然共右日延御聞届無之候得は火急に相約め指出候様可申越哉其程は難斗存候間各右様心得に而右御ヶ條に相當り其村々之様子致下調へ可被置候事に寄り火急に被仰付義も難斗存候に付被仰出之品夫々書寫し相廻し申候間其村々夫々寫取御考被成度存候此狀先々早々相廻し濟村より追而此方へ可被指展候

子十二月廿五日

東條勘左衛門
組 村 中

年始暑寒見舞贈物指留御觸請書

(那賀郡坂州木頭村所藏)

仕上る御請書之覺

市郷之者共諸御役人へ出入等仕從來之懇意によつて年始暑寒又者時候見舞として贈物にいたし來候類相聞別而近頃何となく不都合之品等相贈候向も有之右様成行候も畢竟不辨之者又は歎願等相合候者坏贈物不仕候而は不相濟様端々相心得之者も有之自然賄賂に似寄候風聞相生し別而

不輕事に候近頃彼是万事御精密に被仰付候得は向後之義者假令懇意より相贈候とも重々抹之品相贈過當之品取扱候義屹と御指留被仰付候條精々心得違無之様可申付候右様被仰付候上拔々不都合之品相贈候得は屹と御取糺被仰候間重々右之御趣意忘却不仕様親敷申付取究可申付候右之通今日私共被召寄被仰出候御趣意重々相守不都合之仕成無之様取究可申旨被仰渡夫々畏奉候依而連判御請書指上申處相違無御座候以上

天保十三寅年十二月

出る羽村肝煎

- 坂州村 柿藏印
- 同村五人組 太郎右衛門印
- 懸盤村肝煎 悦三郎印
- 後見 金藏印
- 同村五人組 作次印
- 小島村肝煎 近藤壽三郎印
- 澤谷村庄屋 齋城多賀次印
- 寺内村五人組 類三郎印
- 木頭名村庄屋 儀茂十郎印
- 同村五人組 安太印
- 拜宮村肝煎 淺岡助右衛門印
- 同村五人組 辨次郎印
- 東尾村肝煎 慶太郎印
- 菖蒲村肝煎 入我政藏印
- 檜曾根村兼帶 長安村肝煎 助五郎印

- 白ヶ谷村肝煎 民藏印
- 小濱村肝煎助役 快藏印
- 同村五人組 勇左門印
- 櫻谷村肝煎 襄右衛門印
- 湯淺重次郎殿
- 蝦夷地上知在住願御觸寫
- 仕上組村壹紙連判御請書之覺
- 同村五人組 嘉右衛門印
- 音谷村肝煎 八之助印
- 同村五人組 京吉印

(名東郡榎本儀市郎兵衛所藏 諸御觸並御願書控帳中抄出)

左之通

公儀御觸之趣御當職御下知有之候條右様相心得其方共組村浦不相洩様寺院役人共へ爲觸知組切請書取揃來月十六日迄に可指出候尤此觸書先々急々相廻濟組より可指戻候以上

嘉永六年

正月廿四日

名東郡中 組頭庄屋共方へ

目付 五百石以下

御目見以上以下

同惣領次三男厄介

清水附之者

浪人

百姓

右今般蝦夷地一休上知被仰出候に付御旗本御家人之内風寒暑濕を不厭山野と跋渉し筋骸を固め文武之修練心懸候もの共相願候得は元身分に應し在住被仰付候間名前早々取調可申聞候且万石以上以下之家來主人見込之者も有之候は、申立次第是又可被差遣候間書面之者共何れも荒地開發野馬牛牧養と始として食料藥用に可充生類育方金銀銅鐵鉛山開掘巨材薪柴伐出草木類植付石炭堀取器具制作採藥鯨獵何に不依生産に相成候類并に湊付等之場所へ休泊處茶店處建度存候者は任望被差遣尤其品に應し御手當をも可被下候向又御國益にも相成格別出精之廉顯れ候者は篤と事實相糺土人は身分御取立農工商之輩は地處家宅等相渡其上御賞賜御手當等も有之候條右之趣相心得有志之者は其筋迄可顯出候猶委細之義は箱館奉行可承候以上

十月

立江町郷約

郷約目次

(那賀郡立江町役場所蔵)

立江村

目次

- 一 御年貢御作法之通毎歲期限無遲滯皆濟上納堅可相守事
- 一 先年邑法取究之通役人並高四拾石以上之重百姓且高之者に而も長年律義之者差加へ立會何事によらず被爲了簡事
- 一 先年より邑法取究之通他村へ譲り田地致間敷事
- 一 先年より他村へ年切賣地致候共内間請返し間敷坏之書付等致間敷事
 - 但右様之仕成有之候得は役人重百姓立會了簡に相及候上村方取究之通引直し可申尤証文認無之内他村買主相鍛候上請印致させ証文相認可申候事
- 一 先年より相民救助之通其年之豊凶穀價之貴賤を酌し其人の窮困を察して厚く救助道と盡し鰥寡孤獨として飢餓に到らざらしむる事
- 一 郷黨尙齒は天下之達禮にして且子弟敬讓を教ゆる所なりよつて今般邑中相儀し春秋社日ともつて男女年七十以上之者と會し酒食と設てこれを饗す且邑中舊事を問て以て後生之裨益とすけ九し古者養老乞言の禮に倣ふ者也
- 右之餘々堅可相守若し猥りに相犯候者有之候得は邑法通屹と取行可申候事

明治三庚午九

承置候也

民政處

庚午九月

立江町郷約

(那賀郡所屬)

一先年より村法取究之通是迄賣來候他村名前之外へ賣地一切可爲禁止事

一他村に而金子借財質入申出候得は田地相應之銀子借財之筈尤不相應之銀高に候得は銀主呼懸村法取究之旨を以相續請印致させ候上質入證文相認可申事

但質入證文元利返辨指支候節は指入置候質物田地賣拂村法之通銀主方へは銀子を以元利返辨可致尤村法取究之通是迄賣來候他村名前之外へは賣地一切可爲禁止事

一村内にかゝりて身分不相應之田地相調候節は右田地證文御取立人手許へ預け置可申候尤右證文預り手形壹通御取立人より買主手許へ相渡置可申候事

一村内之者内間に而名前を貸し他村へ賣地等致間敷候事

但し右様之仕成顯然候時は役人重百姓立會村方取究之通引直し可申候事

一右四ヶ條村内法則に立置候様民政處より厚被仰出候間村法取究之通堅可相守事

但し先年より之舊規則尙又此度取究之條々堅可相守萬一相犯候者有之候得は右者義は一己之身勝手より一村中として永く困窮に到らせ候基に相開き候事ゆへ向後村内田地聊たり共相調候義村法を以屹と指留候事

村内取究之覺

一裁判人之義は是迄取究之通何事によらず壹疋之了簡を請取計らひ可致尤臨時指懸り候節は銀高貳百目以下は裁判人申談之上可爲了簡貳百目以上之節は壹疋へ申出了簡を請取計らひ可致且亦裁判人之義は壹ヶ年に不限壹疋之見込を以て其人へ相頼可申候事

一高四拾石以上之面々門前へ捨子有之候節は銀貳百目相添へ村方へ可申出事

但し自宅へ捨子有之内密辻に持出脇より相顯れ候節は過料として銀壹貫目辻へ指出させ其上村方役場に而屹と相行着可申候事

一高貳拾石以上之面々門前へ捨子有之候節は銀百目相添へ村方へ可申出候事

但し自宅へ捨子有之内密辻へ持出脇より相顯れ候にかゝりては過料として銀五百目辻に指出させ其上村方役場に而屹と相行着可申候事

一高貳拾石以下之面々門前へ捨子有之節は役人手元へ願出可申事

一一五〇

右取究之條々堅可相守者也

明治三年庚午九月

元服聽屆書

(板野郡 森洵氏 所藏)

私嫡子太郎儀當年拾六歳に罷成候に付前髪爲執申度奉存候此段申出候以上

安政四年

三月七日

森國之介

(附箋)

覺書之趣承届候已上

三月十一日

良遷院殿御染筆

(美馬内氏 所藏)

文化八のとし閑きさらき初の五日一宇山戸釜一見千ゆきしに此頃み奈美の風二日三日吹續たれば谷の南なる山の雪も解たるにや此頃乃春雨の□と降りきりた累と言ふ事もなき千水のいさをぬおもひの外干はけしきよしを所の老なども言ける干

雪解して 浦水強し釜れ中

参考目録

捉覺書等手控	阿波郡	大塚徳太郎氏
阿州蒸汽船指廻其他諸記録	美馬郡	谷庄内氏
諸伺聞合存寄之控	名東郡	福田小七氏
跡書帳	名東郡	福田小七氏
申上添書請書之控	名東郡	福田小七氏
公儀御觸諸事取究覺書	海部郡	久米芳衛氏
御記録之内抜書	名東郡	富永久基氏
御廻文諸御用控帳	那賀郡	長町八州氏
田畑賣買等御趣法控書	那賀郡	坂州木頭村
諸御觸書寫	那賀郡	松浦芳太郎氏
諸願心得觸狀請書寫	板野郡	森苞樹氏

一一五一

342
467

大正三年三月卅一日印刷
大正三年四月十日發行

發行所 德島縣物產陳列場

德島市大字中通町字北側一番地
印刷人 奧山文平

德島市大字中通町字北側一番地
印刷所 芳川堂活版部

諸作法意見書
任官御繪旨
海部郡
小野房太郎氏
岩佐學氏

阿波藩
民政資料終

一五四



終

